

オルゴールの展示10年

「小さな博物館」記念コンサート

来月5、19日 自動演奏ピアノで



19世紀後半から20世紀前半の年代物
オルゴールに囲まれる嘉也子さん

印刷会社の経営者夫妻が趣味で集めた年代物のオルゴールを公開している「オルゴールの小さな博物館」(文京区目白台三丁目)が、来月、開館十年の記念コンサートを開く。

この夫妻は名村義人さん(五才)と嘉也子さん(五才)。

二十数年前、嘉也さんのお親が孫たちにヨーロッパ旅行の土産として、薄い銅製の円盤を使ったディスク・オルゴールを買ってきたら、子供たちより、名村さん夫妻がその音色に心を奪われてしまった。

その数か月後にデパートで大型のオルゴールを買っ

たのを手始めに、十九世紀後半から二十世紀前半までの欧米のオルゴールを次々と収集するようになった。夫妻は昭和五十八年五月、「できるだけ多くの人の見たり、聞いたりしてもらいたい」と、事務所兼用の四階建てビルの自宅部分を博物館に模様替えし、住まいを近くに移した。

ただ、音を聞いてもらうためにオルゴールの消耗が激しく、博物館は土、日曜の限られた時間しか開けない。もっと多くの人にも楽しんでもらえるようにと、五年前には二階の貸し事務所もホールに変え、月曜から金曜まで一日に四十分のコンサートを二回開いている。収蔵品は現在、二百三十点になったという。

すでに七万人の来館者を数えるが、中には「落ち込んでいたが、オルゴールの音色を聞いて元気になっ

た」「やさしい音色に心が洗われました」と、感想をノートに残す人もいる。

記念コンサートは、来月五日と十九日のいずれも午後二時から、ホールで開かれる。自動演奏ピアノによって、二十世紀初頭に活躍したガーシュインやドビュッシーなどの五曲ほどが披露される。

記念コンサートは千五百円。定員は各回三十人で予約が必要。問い合わせは同博物館(☎3941・0008)へ。